

地域ブランドをつくる人たち

やわらかな手仕事から生まれる 神戸のパールジュエリー

Curvy
Pearl

カービーパールと私

地域ブランドに強い関心を持ち、独自に地域ブランドの取材活動を行っている大江山特許商標事務所の弁理士 岡恵による今回の取材テーマは、「神戸の真珠産業」。

真珠の街と呼ばれる神戸で、本真珠と天然石を用いたアクセサリ・ジュエリーを制作・販売されている Lunatic Pearl Kobe Japan (神戸市) の中山玲子さんに、神戸の真珠産業とのかかわり、自らのブランドを立ち上げられたきっかけについてお話を伺いました。

■神戸の真珠業界とのかかわりについて教えてください



神戸の真珠メーカーに 27 年勤務してきました。卸、小売り、展示会、通販、TV ショップ、香港ジュエリーショーなど、日本や世界に向けての商品を製作し、販売する経験をしてきました。

神戸は真珠養殖の産地ではありませんが、真珠の加工メーカーが多く集まっているところなんです。港町なので、運搬しやすく加工地として適していたこと、また真珠の加工・選別に必要な安定した自然光が、六甲山に反射して、北側から得られることも理由です。真珠の選別は自然光が一番いいのです。また、加工技術でいえば、天然の浜揚げされた真珠を、前処理する技術も神戸が世界一だと思います。実は、自然のままの真珠は、白くなくて、そんなに綺麗ではありません。

■自ら真珠のアクセサリ・ジュエリーを制作して、販売しようと思われたきっかけは

世界の真珠業界において、日本の真珠の加工技術、製品制作技術はトップレベルです。その技術を進化させ、今までの売る側の固定概念を超えて、日本、世界に、真珠の良さを、もっとアピールしてゆきたいと考えたからです。これが理由の一つです。

実は、もう一つ理由はあります。真珠メーカーの会社員時代、海外の高級宝飾店に並ぶ、1 点で 100~200 万円程度のパールジュエリーを制作してきました。これらは自分ではとても手が届

かない価格帯ですし、作っていても面白くないように感じることもありました。

それならば、手に届く、お求めやすい価格の真珠のアクセサリーを自分で作って、販売しようと思ったわけなのです。

■中山さんの取り扱われている商品の特徴は

特徴の一つとして、daily なアクセサリーやジュエリーとして、気軽にお召いただけるものから、プレミアムなパールまで、幅広い商品を取り扱える技術にあります。

私は、穴あけ、連組み、製品制作など、真珠メーカーで行われている作業のほとんどを一人で行うことができます。手に届きやすい価格帯でありながらも上質な商品を提供出来る理由は、自らデザインし、加工し、仕上げているからなのです。

真珠は冠婚葬祭だけのものではありません。シンプル、フォーマル、個性的など、真珠はあらゆるデザインに変化します。日々を共に寄り添ってくれて、自信を輝かせることを助けてくれる存在です。

例えば、コットンパールというイミテーションパール、安価で人気がありますね。これらは消耗品として消費されてゆきます。コットンパールをお求めの方は、パールの雰囲気がお好きなのでしょう。でもコットンパールに 3,000 円を払うならば、本物のパールが買えるのをご存じでしょうか。

本物のパールは、あこや貝が生み出すものですから、さまざまな色、形、品質のものが採れます。グレードによって、高価格なものから、手に届きやすい価格帯のものまであります。低価格帯のグレードのパールでも、天然石と組み合わせるなど工夫次第で、かわいらしいパールアクセサリーにすることができます。

5,000 円～10,000 円程度から購入できる私のアクセサリーを通じて、本物のパールの良さ、美しさをより多くの人に知ってほしいと思います。



特徴の二つ目は、神戸を意識したおしゃれなデザインを心がけていることです。神戸は異国情緒にあふれるおしゃれな港町です。六甲山と海に囲まれて、自然が豊かなのも特徴です。この真珠の街神戸のもつ雰囲気を、デザインとして商品にこめています。商品写真を撮影する際にも、かならず神戸の綺麗な風景を入れるようにしています。あとは、商品と美しい花の写真などと組み合わせ、美しくて素敵な気持ちになるイメージを発信するよう心がけています。

特徴の三つ目は、修理も丁寧に行う点です。糸替え、修理などのアフターケアは、いつでも無料で対応しています。真珠は生き物からできたものです。たとえ、地金に変色しても真珠を捨ててほしくないのです。私は、小売もするし、修理もするという、庶民的な、街の真珠屋さんとしてやってゆければなあと思っています。

■カービーパールを商標登録された理由とは



「カービーパール (Curvy Pearl)」とは、一般にサークル真珠とよばれ、同心円状に筋の出た真珠を指すもので、私が名付けたオリジナルの名称です。

この「サークル珠筋」は真珠の養殖期間中、挿入された核が内臓の中で一定方向に少しずつ回転するためにできるといわれています。このような筋が入っているため真珠としての評価は低く、日本では扱う業者は少ないのが現状です。一方、個性は芸術ととらえるヨーロッパなど海外では、「サークル真珠」は daily なジュエリーとして好まれています。

わたしは、サークル真珠の曲線が、とても美しいと思っています。そこで「曲線美」の意味がある“Curvy”を Pearl と組合せ、カービーパール (Curvy Pearl) という造語のロゴを作り、商標登録しました (右図：商標登録第 6348088 号)。

商標登録をしようと思ったのは、「独占的にこの名称を使いたい」からではありません。むしろ、逆です。サークル真珠のすばらしさに共感してくださる、すべての同業者様にこの商標をご使用いただきたいと思っています。カービーパールの名称を広く使用して、知名度を上げてゆきたいのです。そして、サークル真珠を、ポジティブなイメージに変えて、世界に向けて販売してゆきたいと思っています。

それに私自身、商標登録したことで、未来への覚悟ができました。後に引けない、やるしかない、という覚悟ですね。商標権は自分の活動を後押ししてくれているような、力強い存在です。

■今後取り組んでゆきたい方向性について教えてください

真珠と日本の伝統技術との組み合わせに興味があります。

例えば、「漆」や「金継ぎ」などの技術と、真珠を組み合わせ、オリジナルな価値を付加したアクセサリーやジュエリーを作りたいと思っています。特に、「漆」がかっこいいと思っています。ヨーロッパの方から見れば、日本のサムライ文化、つまり甲冑とか刀とかは芸術品の一つなんですね。海外の方は、日本人以上に、日本のものや歴史がお好きな方がおられます。そのような方をターゲットとした、「日本」をイメージさせるアクセサリー、ジュエリーを考案したいと思っています。

そのほか、日本の地場産業の織物地と真珠を組み合わせた繊細なネックレスとか、敢えてチャレンジしてみたいですね。一般に、耐久性のない、いわゆる消耗品のような素材は、真珠のネックレスには採用されません。しかし、私は業界常識にとらわれず、新しいものを作ってゆきたいです。そして、これらを日本の新しい伝統工芸品として、海外に展開してゆきたいという夢を抱いています。

私は、これからも一生、真珠とともに歩んでゆくとおもいます。

真珠業界は、加工、販売にいたるまで数多くの方によって成り立っています。若い世代の作り手さんとも協力しながら、神戸の真珠業界をすこしでも盛り上げることができればうれしいです。

+++

中山玲子さんが真珠とともに歩まれてきたこれまでの歴史、そして未来への展望、大変興味深くお伺いしました。これまでのご経験を踏まえて、日本の伝統技術が世界からそのように見えているか、という客観的視点からのモノ作り、異素材の組合せ、特に非常にユニークだと感じました。近いうちに、神戸の北野町にある、通称「パールストリート」や、日本真珠会館にある「パールミュージアム」を訪れてみたいと思います。

実は、このインタビューを終えてから、すっかり中山玲子さんに感化された私は、パールのネックレスを日常に使いはじめました。母から譲り受けたパールのネックレスは、ひんやりとして、すこし重量感があります。身に着けて一日を過ごすすと、なんとなく日常が豊かになったような気がするのです。

以上で「カービーパールと私」のレポートをおわります。

(文：岡 恵)

【Lunatic Pearl Kobe Japan】代表 中山玲子さん

<https://lunaticpearl.thebase.in/about>

<https://www.creema.jp/c/lunaticpearl>

所在地：神戸市東灘区住吉東町

お問合せ：090-3945-7032

【大江山特許商標事務所】

所長弁理士 岡 恵

所在地 〒651-0086 兵庫県神戸市中央区磯上通4丁目1-14 三宮スカイビル7F

お問合せ 電話 050-5358-4585 URL <https://o-ip.pro/>